

なかよし

てんどうちゅうぶしょうがっこう
天童中部小学校

いちようがくねいだより
いちよう学級だより

R5.2.27

No. 32

Aさんに学ぶ ていねいにくらすということ

いつものように朝の支度を終えてプレイルームに遊びに来た A さん。絨毯に上がるために靴を脱ごうとしたときに、ふと止まり、少しの間何かを見つめて考えているようでした。すると、くると振り返り、戻ろうとしたのです。



「あら？どうしたの？」と聞くと、「壊れると悪いから。」と。プレイルームには、3学期のマイプラン学習のために使うものが準備して置かれています。それを見て、考えたのでしょうか。そして、遊ぶ約束をしていた友達に、「プレイルームは、壊れて悪いものがあるから、相談室で遊ぼう。」と提案し、相談室に入って行きました。

Aさんが立ち止まって考えている姿を目にすることが、最近何度かありました。通学班会が体育館で行われていた時、Aさんは班のみんなと話し合いをした後、同じ班の人と一緒に体育館を出ようと歩いていました。Aさんは、またふと立ち止まって後ろを振り返りました。そして、何かを見て、また出口に向かって歩き出しました。何を見たのかはわかりません。でもAさんの視線の先を追うと、自分が話し合った場所の方でした。おそらく、他の班はまだ終わっていない様子を見て、「本当に自分の班は終わりで大丈夫かな？戻っていいのかな？」と確認したのではないかと思います。

また、同じ週のある日、「Bちゃんはどこですか？」と私に聞いてきました。「ごめんね、私はわからないなあ。」と答えると、じっと考え始めました。そして、「今日は何曜日だっけ？」と私に確認しました。「ええと、今日は水曜日だね。」と答えると、「あ、今日はBちゃんは（委員会活動の）掃除の日だった！」と、いつもBさんが掃除をしている階段を見に行ったようなので私もついていきました。本当にBさんが掃除をしていました。Aさんが友達がいつどこで何をしているかをわかっていることに驚きました。

Aさんのほんの一瞬の動きではありますが、この一瞬に、Aさんのていねいな生き方がにじみ出ています。周りの状況に心を寄せ、周りの人に心を寄せ、ひとつひとつのことに對して、立ち止まり、自分はしたらよいか考えて動き出す。



忙しさに、時にていねいさを忘れて次々と先に意識が向いてしまうことがあります。立ち止まって、周りに目を向け考えることの大切さをAさんから改めて学びました。子どもたちには、日々、大切なことを教えてもらっています。

